

## はしがき

20世紀が終わり、新しい21世紀が始まろうとしている。それにも拘らず日本のみならず世界においても、明るい見通しが見えてこない。世紀末の混迷期から抜け出られないでいる。筆者にとっての20世紀とは、幼少年期の戦争体験と戦後の新憲法・経済発展に象徴される。戦時中に受けた軍国主義教育は、国のためということが何よりも優先され、個性が度外視されるものであった。戦後の新憲法は、民主主義と平和主義をもたらしてくれた。特に個人の尊重が基本と教えられたことに大きな感銘を受けた。このことから、筆者の脳裏には、民主主義とともに独裁政治の恐ろしさが焼き付いて残された。筆者が、民主主義の定着を図るための政治教育に取り組んだ基底には、こうした体験と意識があった。

戦後の公民教育は、大森照夫氏、梶哲夫氏、星村平和氏などによって先駆的に指導されたが、これらの方々は本来の専攻が史学や哲学で、法学や政治学を専攻した者が政治教育の研究に取り組むことはほとんどなかった。筆者は、昭和42年に埼玉大学教育学部に赴任し、政治学とともに社会科教育法を担当することになって初めて政治教育の研究を行うことになった。幸い政治教育は、政治学に関連しており、政治学の研究成果や方法を応用できる分野であった。筆者が埼玉大学の関係者と著わした『社会科における政治教育』（1973年、明治図書）は、この分野での初めての体系的な類書であった。

戦後の高度経済成長は、日本に豊かな社会を実現させ、戦後日本が目指した経済復興は一応の達成を果たすことが出来たが、民主主義の定着は必ずしも達成されたとさええず、差別やいじめなどの人権問題、投票率低下などの政治離れ現象、政治汚職事件や国民不在の永田町政治など問題が山積している。これらを解決する基本は、政治教育にある。本研究は、その重要な政治教育の体系的基礎研究である。

本論文は、筆者のこれまでの政治教育の研究成果を集大成したものであるが、2部構成とした。第1部は、公民教育の一環としての政治教育ということで、学校教育では政治教育が公民教育の一部として位置付けられており、その視点から関連あるものをまとめた。

学校教育では、政治教育というと一般的に憲法、法律、人権、政治、平和、国際関係などの領域が含まれている。第2部は、民主主義を定着させるための政治教育で、主権者意識を育成し、政治参加を促し、健全な有権者として民主政治の担い手を育成するための政治教育である。便宜上2部に分類したが、全体を通して民主主義のための政治教育として捉えることができる。

最後に、未筆ながらこれまでの私の研究をご指導・ご鞭撻頂いた大森照夫先生、梶哲夫先生、谷川彰英先生をはじめ、埼玉大学、東京学芸大学の諸先生、日本社会科教育学会・日本公民教育学会の諸先生に、厚く感謝の意を表するものである。